

令和7年度（平塚ろう学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上（法令の遵守、服務規律の徹底）	<ul style="list-style-type: none"> ・教育公務員としての自覚向上 ・教職員に求められる高い倫理観の保持・向上 ・心理的安全性を高め、円滑なコミュニケーションの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の倫理に関する指針、啓発資料等を活用して、定期的自己チェックを行って、高い倫理観を持って行動することに取り組んだ。 ・若年層や臨時的任用職員、会計年度職員との面談を適宜実施し、困り感や課題を共有し、自分の考えや気持ちを安心して発信することができる職場づくりに努めた。
個人情報等の管理、セキュリティ対策	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関する事故の未然防止徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研修を実施し、個人情報の取り扱いに関するルールの徹底、個人情報管理の徹底を図った。卒業アルバムにおいては、肖像権について再検討をした。個人情報持ち出し許可や掲載許可のルールを再検討した。 ・ダブルチェックを徹底し、引き続き注意喚起を行っていく。
幼児・児童・生徒へのわいせつ・セクハラ行為の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・人権侵害行為の未然防止 ・人権意識を持った適切な指導の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室等の密室化防止のため環境整備や校内巡視を行った。 ・全体での人権研修を通して、一人ひとりの人権意識を高めることができた。 ・「さん」付け呼称ができていないか定期的に確認を行った。今後も意識向上を図っていく必要がある。
会計事務等の適正執行	<ul style="list-style-type: none"> ・公費及び私費会計の適正な執行・管理 ・備品等の適正な管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・私費執行手順（私費会計の手引き）を確認しながら進めた。今後も校務グループを中心に働きかけ、手順に従った執行を徹底する。 ・私費会計基準に基づく適正執行、ダブルチェックによる適正な管理、処理を行い、事故無く業務遂行できた。
体罰、不適切な指導の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児・児童・生徒の実態をおさえた、体罰によらない適切な指導の徹底 ・幼児・児童・生徒の人権を尊重した指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究を推進し、幼児・児童・生徒の理解と聴覚障害教育の専門性を高め、指導力の向上を組織的に図ることで、適切な指導・支援を実践することができた。 ・生徒指導の場面においては、複数で対応し丁寧な指導が継続していけるよう心掛けた。 ・他学部体験週間を活用し教員が互いに授業参観できるようにし、他学部を知る機会を持ち、授業力の向上につなげた。
職場のハラスメントの防止	<ul style="list-style-type: none"> ・パワハラ、セクハラ、マタハラをはじめとするハラスメントの未然防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職による面談の機会を通して、学部・学年の様子を聞き取るとともに、改めて注意喚起を行った。チーム内での情報共有、不祥事防止会議での報告等により未然防止ができた。 ・同僚性を醸成し、お互いが気持ちよく働ける環境づくりを推進することができた。
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	<ul style="list-style-type: none"> ・確実な業務遂行と点検体制の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績処理や進路業務において、複数チェックによる確実な取扱いを徹底し、不祥事防止会議で確認した。 ・入学者選抜業務について、学部や校務グループ等で確認し、業務マニュアルに従いながら職員の意識を高め、ミスのない業務遂行につなげることができた。
業務執行体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の連携を強化し、円滑な業務執行体制をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Teamsを活用して情報共有、チェック機能を徹底した。 ・ヒヤリハット事例が発生した時には、各学部や分掌で共有し、未然防止に向けた取組を検討し注意喚起を行った。 ・今後も学部やグループ業務を見直し、持続可能な業務内容と体制の整備を進めていく。

○ 令和7年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和8年度に取り組むべき課題
(学校長意見)

チームで不祥事防止ゼロプログラムに取り組む、あわせて職員一人ひとりが教育公務員としての自覚と誇りを持ち、高い倫理感の保持・向上を目指すことを意識した。

事故・不祥事を起こさないようにするため、日ごろから授業づくりや幼児・児童・生徒の情報共有等、教職員のコミュニケーションを大切にして同僚性を高め、風通しが良く、心理的安全性の高い職場づくりを目指して取り組んできた。

次年度も、教職員が不祥事防止に対して自分事として取り組めるように、引き続き努めていく。